

令和5年度 横浜市幼保小連携推進地区事業  
瀬谷さくら地区 活動報告書

関東幼稚園

横浜市立 瀬谷さくら小学校

## 【推進テーマ】

「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」  
～アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実を  
めざして～

### 〈推進テーマ設定の理由〉

子どもたちにとって、小学校入学は、大きな節目のできごとである。期待をもつとともに、大きな不安を抱えている子どもたちも多い。子どもたちがのびのびと楽しく学んでいくために、また、安心して学校生活を送ることができるようするために、園ではアプローチカリキュラム、小学校ではスタートカリキュラムを実施している。それぞれの取り組みをお互いがより詳しく知ること、見直しや改善を行い、子どもたちのスムーズな接続と安心につなげたいと考えた。



### 〈幼保小の連携〉

○小学校を中心に、関東幼稚園、石川幼稚園、文化保育園をはじめ、およそ10園から子どもたちが入学してくる。

### 〈地域に見守られ育まれる学校〉

○学援隊の方々が、登下校、学習サポートなどでたくさん関りを持ち、子どもたちも「自分たちを応援してくれている地域の方」と親しみを持ち、交流を深めている。

## 瀬谷さくら地区の特徴

## ① 職員の連携

- ・年間計画を立て、子どもの学びを共有する。
- ・情報交換・研修会・保育参観・授業参観
- ・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し

## ② 子どもたちの交流

- ・1年生と園児の活動（学校紹介・公園での交流）
- ・2年生と園児の活動（幼稚園訪問・交流）

## ③ 研修を通じた学びを生かす

- ・「『探究心を発揮する子ども』へ  
～子どもの姿と大人の援助を語り合おう～」より

# 2年目

お互いを知ろう 子どもに返そう

# 2年目の取組計画

## ①職員の連携

- ・保育士・教職員同士が互いの環境や取り組みの様子を実際に見て知ることで、子どもの理解の向上と個に応じた支援について具体的に考えることができる。  
また互いの関係を深めることで連携がスムーズかつ弾力的に行えることをねらう。



4月  
保育士による絵本の読み聞かせ



5月  
教職員が幼稚園のリトミック教室に参加



10月  
教職員による幼稚園の運動会参加



# 【活動の経過と今後の予定】

第1回推進委員会	4月14日 (金)	担当者による交流計画作成
読み聞かせ	4月24日 (月)	幼稚園教諭による1年生児童への読み聞かせ
授業参観	5月以降	幼稚園の職員が授業を参観
保育参観	5月2日 (火)	小学校の職員が体操教室を参観
交流会①	5月30日 (火)	2年生がまちたんけんの一環として園に訪問、年長児と交流
研修会	7月25日 (火)	「幼保小 教育連携研修会」参加
研修会	7月26日 (火)	「幼保小 教育連携研修会」参加
幼稚園運動会	9月30日 (土)	小学校の職員が幼稚園の運動会に参加
研修会	10月19日 (木)	「第2回 接続期研修会」参加
小学校運動会	10月28日 (土)	幼稚園の職員が運動会に参加

第2回推進委員会	11月初旬	交流計画見直し・作成
交流会②	11月15日 (水)	年長児と1年生が秋探しの中で交流
生活発表会	12月2日 (土)	幼稚園の生活発表会に小学校の職員が参加
交流③	12月15日 (金)	年長児と1年生が小学校体験を通して交流
授業研究会	12月中旬	幼稚園の職員が小学校の授業研究会に参加
合同防災訓練	1月9日 (火)	小中合同防災訓練に幼稚園職員が参加
交流④	1月下旬	1年生から幼稚園の先生方にお手紙を届ける。
区教育交流事業報告会	2月上旬	区教育交流事業報告会で報告
研修会	3月18日 (月)	「第4回 接続期研修会」参加
第3回推進委員会	3月中旬	年間の振り返り 次年度の計画

# 【瀬谷さくら小学校スタートカリキュラム】

- ①子どもが学校生活に対して安心感をもつことができるようにすること。
- ②この時期の発達段階をふまえ、生活の中の興味・関心を核とした活動や体験を中心とした学習を取り入れることによって、幼児教育との滑らかな接続を図ること。  
生活科を中核とした合科的・関連的な学習を構成していくこと。
- ③新しい集団の中での人間関係を徐々に築いていけるようにすること。
- ④新しい集団のルールを受け入れ、その中で自己発揮できるようにすること。

# スタートカリキュラム



名前は何て言うの？

学校に来たら、  
まず友だちや先生と思  
いっきり遊ぶんだ～！

ぼくのおもちや  
だぞ！



ねえ、  
何幼稚園？



学校、楽し  
いね。





# 【関東幼稚園アプローチカリキュラム】

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体 ○自立心 ○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり ○思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩・遠足・芋ほり・防災教室・公園のごみ拾い・いちご狩り</li> <li>・季節の遊び(虫取り 秋遊び 水遊び等)</li> <li>・野菜の栽培(枝豆、とうもろこし、トマト、きゅうり)</li> <li>・花の栽培(ヒマワリ、チューリップ、ヒヤシンス)</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バルーン・運動会・劇あそび、わらべうた・卒園遠足</li> <li>・リズム遊び・ドッジボール</li> <li>・集団遊び(水おに、ふえおに、リレーなど)・縄跳び</li> <li>・季節の行事(お正月あそび・節分・夏祭り・ひなまつり他)</li> <li>・卒園式</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会・劇あそび・卒園遠足・年下児クラスの手伝い・縄跳び</li> <li>・季節の行事(お正月あそび・節分・ひなまつり他)・卒園文集作り・卒園式</li> <li>・当番活動(人数報告、給食配膳、水やりなど)・ハンカチ、上履きの使用・洗濯・掃除(ほうき、雑巾がけ)・小学校訪問</li> <li>・タイムスケジュールの表示</li> </ul>

	アプローチカリキュラムの活動の柱	アプローチカリキュラムのねらい
A	学びの芽を大切に活動の充実	・知的好奇心を育み、自ら学ぶことができますようにします。
B	協同的な遊びや体験の充実	・人とのつながりを実感し、友達とともに目標を達成することができますようにします。
C	自立心を高め新しい生活をつくり、安心して就学を迎えられる活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長を実感し、自信をもって新しい生活をつくることができますようにします。</li> <li>・小学校との交流を通して、安心して就学することができますようにします。</li> </ul>

# アプローチカリキュラム

～幼保交流～

<ねらい>

- ・ 就学先の小学校で出会うことを楽しみにできるように雰囲気作りをする。
- ・ 就学に向けての期待や不安を受け止め、同年齢のお友達と関わりを持てる環境設定をする。

10月



保育園の子も速いな。

幼稚園の子も速いな。

10月



私が押してあげるね。

お名前、何ていうの？

1月



外野にパスしよう！

取ってからすぐ投げよう

ボールを投げるのが上手だな

4月になったら同じ小学校になるお友達もいるね。  
名前を覚えてお友達になれるといいね。

## ②子どもたちの交流



こんにちは。2年生です。  
仲よくしようね。

給食の牛乳パックでおもちが作れるんだよ。  
教えるね！



5月  
関東幼稚園に訪問

5月下旬

2年生がまち探検の一環として訪問。  
久しぶりの幼稚園に「かわいい！」  
「階段が小さい（低い）！」と歓声をあげて  
いました。

二つ年下の友だちに接することで、自分たちの成長を感じることができました。



え？瀬谷さくら小に  
来るの？楽しみ！  
待ってるよ。



鬼ごっこしよう！  
待て待て～！



きゃー、  
逃げろ！

大縄できる？  
ゆっくり回すね！  
せーのっ！

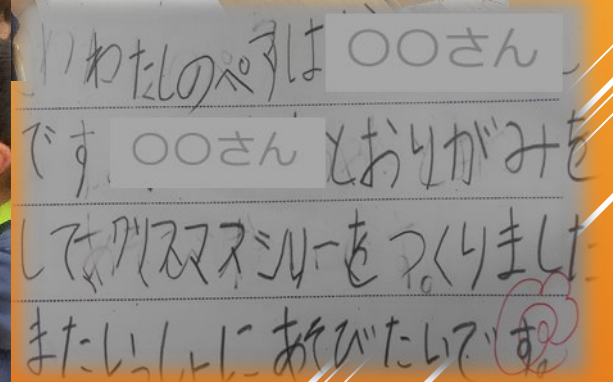
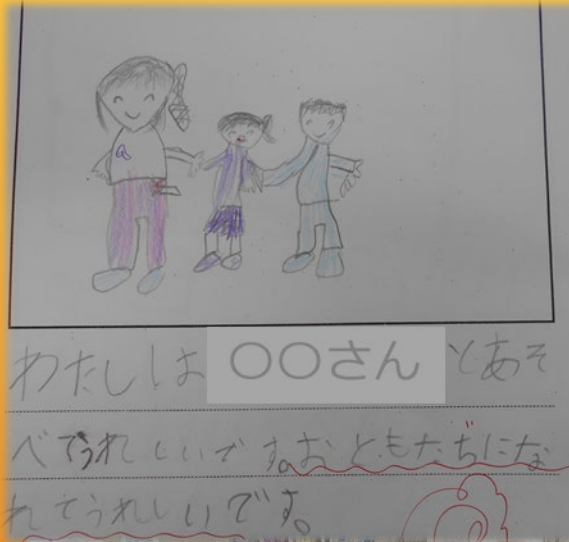


並んで、  
並んで！先生  
も一緒だよ！



関東幼稚園の近くの公園に秋探しに行くと…  
あら、幼稚園のみんなもお散歩だったんだ！

11月  
まち探検



11月に交流したことで、年長児に  
「瀬谷さくらに来てほしいな。」という思い  
が爆発！

「小学校の中が知りたいんじゃない？」

「私たちのハマってるすごろくを教えてあげたいな。」

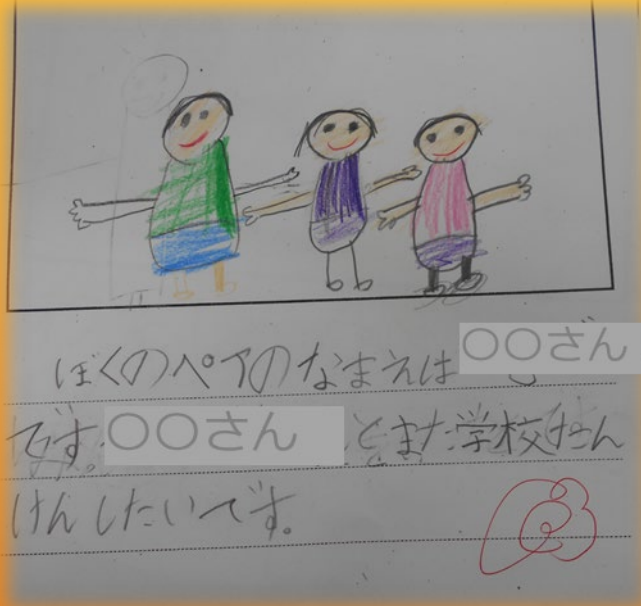
「勉強も教えられるようになったよ！」

アイデアが次から次へと湧いてきます！！

12月  
学校へ招待



ペあの子とが、校大けんをいした。  
こっしや、キッズクラブをおいしました。  
たのしかたでもペあの子の名まえは〇〇さん



見てみて!

4階まで  
あるんだよ。



広いね~。



みんな勉強中  
なんだよ。  
歩くときも  
シーツ!

12月  
学校へ招待

### ③ 研修での学びを生かす

横浜市こども青少年局・横浜市教育委員会事務局主催 教育連携研修会

「探究心を発揮する子ども」へ～子どもの姿と大人の援助を語り合おう～

その1 第3分科会「環境」より

サークルタイムが気になったので、同じグループになった幼稚園、保育園の先生方とサークルタイムについて話題共有した。どちらの園でも最近は取り入れている活動とのことで、とても興味深い話を伺うことができた。今回の提案にあったように、子どもたちの目的をもった話し合いから、日々の気になったことの共有まで、対象はさまざまであるものの、年齢に応じて行っているようで、小学校での話し合い活動、主体的で対話的な学びに生かすことができると感じた。

子どもたちの探究心を引き出す一番の方法は、子どもたちから生まれでた課題を見逃さず捉えること、また、子どもたちの願いに近づくための場の設定をいかに計画的に見通しをもって準備することが大切かということだと改めて感じた。

教室掲示の方法にしろ、活動の場の工夫にしろ、子どもたちもちろん、教員も見通しをもてるよう教材分析をしていく必要を感じた。



様々な活動を進めるにあたっては、子どもの思いや願いが実現するようなものにしていきたいということ、園と学校で改めて共通理解した。また教室掲示や教材提示についても、子どもが活動しやすくなる工夫の必要性を確認した。



## その2 第5分科会「表現」より

「子どもがそこにいるだけで、その存在だけで表現があるんだよ。」という助言者の先生のお話に目から鱗だった。私たちの仕事は、子どもたちの苦手なもの、困り感を見つけ、直すことや抜け出すことを教えることではなく、その思いに寄り添うこと、その子の良さを発揮するためにできることを見つけることなんだと改めて感じ入った。

幼稚園の先生方との協議の時間に幼稚園の先生が、「4~5年前は、小学校の先生は就学前の学びや育ちにあまり関心がないように思えた。今はすごく園での学びに寄り添ってくれている気がする。」とおっしゃっていた。スタートカリキュラムを学校全体のカリキュラムとして位置付けたところ、子どもたちの瞳の輝きや、学校生活への大きな信頼と安心感が増していくのを感じ、やって良かったと思い知らされた。スタートカリキュラムに絶対的に必要なものが、幼稚園や保育園からの学びの引き継ぎである。子どもたちにも成功体験が必要なように、私たち教員も成功体験がなければなかなかはじめの一步は不安である。今回のような、幼保小連携のための研修や、接続期の成功体験を共有していけることで、さらに幼保小の連携がすすみ、子どもたちが安心して成長できる場を作っていきたいと考えた。



園と学校の職員が顔を合わせて話す時間を確保するのはなかなか難しいが、行事等の機会を生かし、わずかな時間でも一緒に話すように努めた。また、本校に入学予定の園児に関する聞き取りにおいては、学びや遊びの経験等についても教えてもらうことで、子どもたちが安心して小学校の生活が始められるよう、引継ぎを確実に行いたい。





# 【成果と課題】

## 〈職員の連携〉

### 【成果】

- 学校も園も、それぞれ担当職員が継続して幼保小の活動に取り組むことができたため、お互いの名前と顔が一致し、打ち合わせがスムーズになった。
- 交流が2年目のため、お互いの学校事情や園の事情が理解できるようになり、無理のない研修計画や、交流計画を立てることができるようになった。
- 学校で「心ほぐしの授業」を依頼していた「あそびのせんせいlavo」のTD先生に、園でも授業をしていただいたり、園に講師に来ていた「五感研究所」のTY先生に学校で自然体験の授業をしていただいたりすることで、「遊びの活動を通して、学校や園でも安心して生活できるようになること」や「自然体験、本物体験が子どもたちの脳を発達させること」といった価値観を共有することができた。

### 【課題】

- △担当者以外の職員を巻き込んで、学校全体の取り組みとしていくための啓発活動に課題が残る。



(TD先生の授業の様子)



(TY先生の授業の様子)





### 〈子どもたちの交流〉

#### 1年生と園児の活動(学校紹介・公園での交流)

##### 【成果】

○コロナ禍の制限が明け、実際に顔を合わせたの交流をすることで、お互いの成長を感じたり、期待をもつことができた。

##### 【課題】

△距離があるため、頻回に交流をもつことは難しかった。

△お互いの発達段階を考慮しても、秋以降の関りが良いが、もう少し、お互いの名前を呼び合える関係になれる交流にできると良いかと感じた。



#### 他学年と園児の活動(幼稚園訪問・交流)

##### 【成果】

○年長児と出会ったり、お世話になった先生にあいさつをしたりすることで、自分たちの成長を実感することができ、良かった。

##### 【課題】

△2年生は1回きりの交流となってしまった。今後のことを踏まえると、5年生児童と年長児との関りの場をもちたかった。

